

滴下浸透気化式加湿器
メンテナンス作業要領書

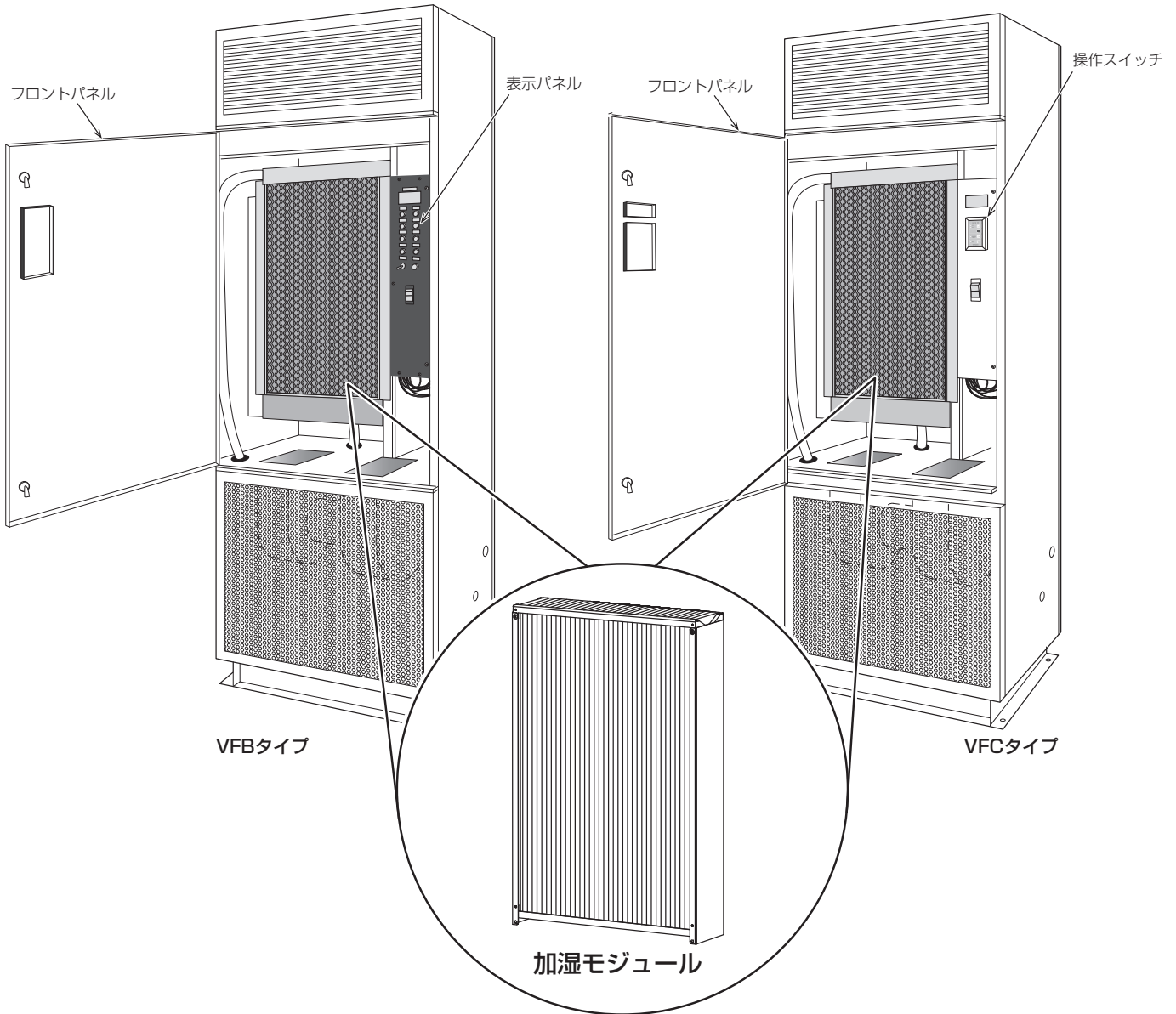
対象加湿器型番 (WM-)	VFB4000/VFB8000	VFC5000/VFC10000
	VFB4000FD/VFB8000FD	VFC5000D/VFC10000D
	VFB4000FDD/VFB8000FDD	VFC5000DD/VFC10000DD

加湿モジュール交換作業要領

作業終了後は必ず試運転を行い、異常の無いことを確認してください。



[Web]
施工要領書 / 取扱説明書
ダウンロードページ



⚠ 警告	保守点検作業、部品交換は設備機器に関する知識を有し作業経験のある方が行う
	❗ 作業に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。
⚠ 注意	作業は漏電ブレーカを遮断してから行う
	❗ 通電したままの作業は感電の原因になります。
⚠ 注意	濡れて困るものを加湿器の周囲に置かない
	❗ 適切にメンテナンスがされていない場合、水滴が飛散する恐れがあります。

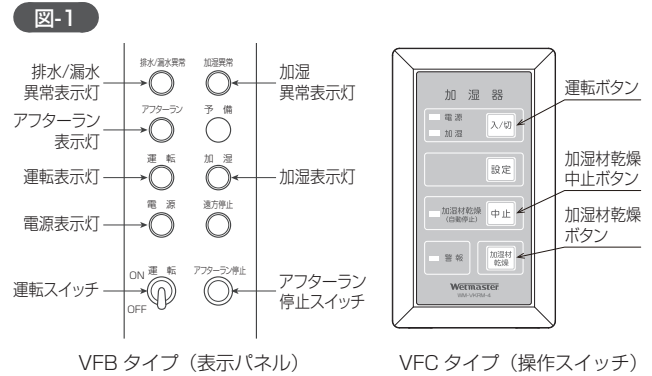
作業に必要な工具、用具

- フロントパネル開閉用鍵 (加湿器本体付属品)
- バケツ
- 養生材
- ウェス
- プラスドライバ

1 加湿モジュールを加湿器から取り出す

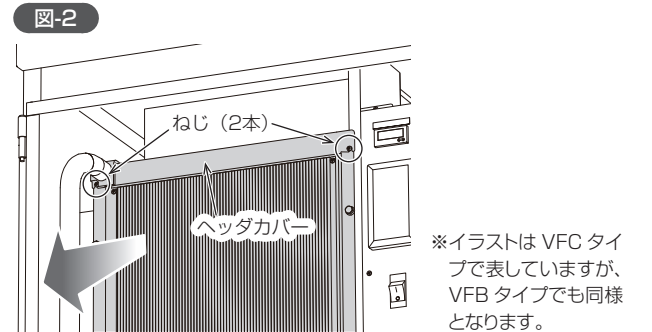
①加湿器が停止していることを確認します。運転中の場合は、表示パネルの運転スイッチをOFFにする(VFBタイプ)、または操作スイッチの運転ボタンを押す(VFCタイプ)ことで表示灯がすべて消灯し、作業が可能になります(図-1)。

- 加湿モジュール質量軽減のため、事前に加湿材乾燥運転の実施をお勧めします。VFBタイプの場合は加湿表示灯が点灯した状態で運転スイッチをOFFにすると、VFCタイプの場合は操作スイッチの表示灯が全て消灯している状態で加湿材乾燥ボタンを押すと、乾燥運転が始まり約1時間後に自動停止します。
- 加湿材乾燥運転を途中で停止する場合は、VFBタイプの場合はアフターラン停止スイッチ、VFCタイプの場合は加湿材乾燥中止ボタンを押してください。



②加湿器元電源の漏電ブレーカをOFFにし、給水サービス弁を閉めます。
 ③フロントパネル開閉用鍵にて解錠し、フロントパネルを開けます。
 ④ヘッダカバーを取り付けているねじ2点を緩め、ヘッダカバーを上を持ち上げて外します(図-2)。
 ⑤加湿モジュールを手前に倒しながら外します。加湿モジュールが濡れている場合は水が垂れる可能性があるため、ウエスやバケツなどで受けながら外してください。加湿モジュールの重さは乾燥時:約1.3kg、湿潤時:約2.3kgです。

- 必要に応じてドレンパンなどの清掃を行ってください。
- 加湿モジュールを構成しているステンレスケースは絶対に分解しないでください。分解すると復旧できなくなります。

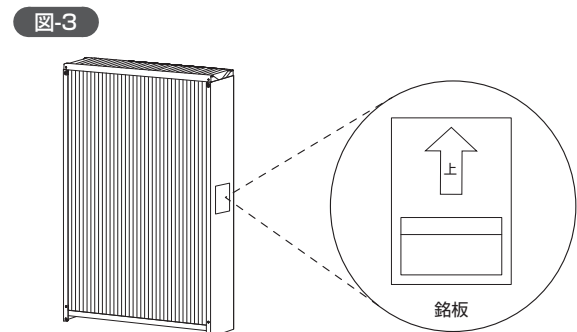


2 新しい加湿モジュールを加湿器に取り付ける

①新しい加湿モジュールを逆の手順で加湿器へ取り付けてください。加湿モジュールの大きさはW350×H600×D65です。VFB4000・VFC5000では2枚、VFB8000・VFC10000では4枚使用します。

- 加湿モジュールには取り付けの向きがあります。加湿モジュール側面にある銘板で上下を確認し、正しい向きで取り付けてください(図-3)。

②ヘッダカバーを元通り取り付け、フロントパネルを閉めてください。



3 試運転確認

●加湿モジュールの取付終了後、下記の手順で試運転チェックを行い加湿器が正常に動作することを確認してください。

- 給水サービス弁を開け、加湿器元電源の漏電ブレーカをONにします。
- 運転スイッチをONにする(VFBタイプ)、または操作スイッチの運転ボタンを押します(VFCタイプ)。
- 電源表示灯・運転表示灯(VFBタイプのみ)・加湿表示灯が点灯し加湿器本体内のファンが運転することを確認します。加湿表示灯が点灯しない場合は、インタロックをとった空調機やヒューミディスタットからの加湿信号があるか確認してください。
- そのまま30分間運転を継続し、本体および配管各部からの水もれがないこと、異常または警報表示灯の点灯、警報信号出力がないことを確認します。

- 運転スイッチをOFFにする(VFBタイプ)、または操作スイッチの運転ボタンを押す(VFCタイプ)、加湿運転を終了します。
- (VFCタイプのみ)全ての表示灯が消灯している状態で加湿材乾燥ボタンを押す、加湿モジュールの強制乾燥を実施してください(加湿材乾燥表示灯が点滅)。加湿材乾燥運転は約1時間後に自動停止します。
 ※VFBタイプは加湿表示灯が点灯した状態で運転スイッチをOFFにすると、自動で乾燥運転(アフターラン)を行います。

- 長期休止などで加湿器をすぐに運転しない場合は、運転終了後に加湿器元電源の漏電ブレーカをOFFにし、給水サービス弁を閉めてください。